

# 平成20年度 泉苑 事業計画概要(案)

## 前年の概況

平成19年度は、制度矛盾および制度改定により厳しさの増した施設運営の検証・見直しの年となった。ホームは確実な入所と適切な医療対応判断によって稼働率確保に努めた。稼働率低迷に苦しむデイは事業検討委員会を立ち上げ、定員・サービスの提供方法や内容に至るまでの課題を整理し、次年度計画に反映した。リスク管理は、疥癬の発症が数回繰り返され職員の不安も拡大、マニュアルに添って的確な対応と拡大防止に努めた。

1 組織は、管理体制現状を維持、次長職を担当変更し、業務補完体制の重層化を図り、ホームは大きな体制変更をせず相談員補佐を配置し次世代育成に努めた。デイは活動と送迎入浴を分化させ専門制を高めた。機能訓練部門は、常勤OTの配置をベースに補助職を配置し重層化を図った。

2 第三者評価はホームとショートに加え、デイ・居室を受審。自己評価も実施、課題を抽出し次年度につなげた。

3 職員に関しては多様な募集方式を導入し人材確保に注力。採用決定から採用後の職員への細かな指導を心がけた。

4 メンテ・防災に関しては担当制を明確化、計画の確実な施行を目指した。大型洗濯機の入替え、居室床張替えおよびタオル・寝具のリース導入を実現した。

5 施設内研修は62回実施。短時間・複数回開催のワンポイント研修も実施した。海外研修に1名参加。

6 自治会、町会ははじめ地域との関係作りは大幅に前進。南側地区での在支の認知度が上がった。

7 業務量の増大、業務への熱意故に慢性化する超過勤務は、健康の維持、私生活の健全化等を意識啓蒙しつつ、「ノー残業デイ」を創設し時間管理や就業管理に努めた。

\*ホームは、入所26名・退所25名(死亡19名(苑内11.病院8)長期入院3名)。入院21件。旧措置者14名。男性21名・女性87名の平均要介護度3.7。稼働率は95.7%と後半上昇。ショートは稼働率103%。デイは平均37.8人/日利用。年度初189件だったケアプランは194件。

## 課題

1 重度化・高齢化・認知症高齢者の増大傾向を踏まえた生活環境・介護・生活支援および行事全般の見直しと利用者の満足及び職員のモチベーションの維持

2 ケアプラン・指針に基づいた身体拘束・事故防止、感染症・食中毒等の予防・加算等法令遵守の注力と作業効率化

3 平成19年度のプロジェクトによる入浴形態の変更・送迎体制の見直し、訪問食事体制の変更結果の検証

4 新調理システムのスムーズな促進の為の研修の取り組みと設備整備計画の検討

5 次世代を意識した組織及び責任体制整備とOJTによる人材の育成

①自らの役割の理解と自覚的な業務への取り組み ・個人および専門集団としてのチーム力向上

②さらなるマナーの向上 ・計画的、効果的な研修の実施 ・資格取得支援および有資格者の活躍の場の提供

6 部署単位の予算管理の徹底および無駄の排除 ・費用対効果を吟味した計画とその実践

7 今後示される介護保険制度の改定への対応および府中市からの委託事業の継続

8 介護予防や見守り・推進事業等、府中市との連携の下でそのあり方を模索しながら事業展開

9 増大する社会問題ケースに対し、施設と在宅の連携を深め、制度に柔軟に対応しつつ地域拠点としての期待に応える

10 在宅高齢者への生活意欲向上を目的とした支援および相談

11 建物設備の維持管理と改築を視野に入れた中長期計画の策定と老朽劣化した建物設備の計画的修繕・点検の実施 ・購入物品等の検収および適正な管理

12 安全対策の強化。防災計画の計画的実施 ・防災委員会、安全衛生委員会、メンテ担当者の有機的な連携

## 重点ポイント

- 1 法令遵守と法人理念の実現にむけた事業運営全般の見直し
- 2 生活環境および居場所、過ごし方の検討プロジェクトの立ち上げ(ホーム)
- 3 新しい送迎・入浴・訪問食事体制の検証と新たな課題検討(センター)
- 4 重度化・高齢化に伴う施設のあり方およびターミナル等の検討と実現(ホーム)
- 5 新調理システム導入にむけた意識の育成と研修の取り組みおよび整備計画の検討
- 6 人材確保と定着にむけた教育システムの構築資格取得の促進組織づくり
- 7 安全対策等リスク管理の徹底
- 8 老朽化した泉苑の改築・建替え問題の協議と計画的修理・修繕

## 全体を通した考え方

- 1 介護保険制度導入以来、要求される多くの事務処理に追われて来た。一方、従来のサービスを変更せず、かつ多くの地域や家族ニーズに応えたいという信念を重視して取り組んできた結果、職員の負担はますます増大し、福祉実現の喜びを実感の機会が減少した。その間、制度の改悪も繰り返され、財政的な状況もますます厳しさを増している。今年は、従来提供してきたサービスや要望されるニーズを、あらためて見直し、法人理念に基づいて提供すべきサービスと時代背景を受けて、整理すべきサービスを整理する年とし、業務のスリム化による職員の負担軽減と見極めたサービス提供による職員のモチベーションの維持に努める。
- 2 見直しに当たっては、制度を十分に読み込み、理解して、運営基準等の「法令遵守」に努める。
- 3 組織としては、各事業ごとの責任体制や適切な権限委譲により、次世代育成や事業の活性化に努める。
- 4 開設33年、改築後17年～18年を経て、老朽化した泉苑の今後の中期・長期計画の検討が必要である。毎年のように修繕計画を作成しながら、措置時代の大規模修繕や補助金制度からの思考転換が不十分で、徹底した施行や法人への具申が不足していたという反省に立ち、法人と共に泉苑の建物・設備の現状をあらためて精査し、改築等への見直しを模索する年としたい。
- 5 計画的な修繕を実施し、日々の快適な暮らしや安全に対応する

		対利用者	職員・業務
運営・管理	事務局担当	1 サービス向上担当と連携しての窓口業務。 2 コンプライアンス(法令遵守)に基づいた利用者請求。 3 利用者小口の適正な管理。 4 未収金管理の徹底。	1 効率的な財務処理・請求業務・予算執行管理。 2 職員勤怠管理。 3 円滑な報告や連絡、正確性と迅速性を持ったチーム作りの追求。 4 事務局本部との連携。 5 財務諸表の読み込み。 6 建替えを視野に入れた資金計画。
	サービス向上	1 建物設備の維持管理と修繕への取り組み。 2 建物設備の維持管理と修繕に関する中長期計画の見直し。 3 接遇マナーの向上。 4 苦情対応状況の公開。	1 防災・安全対策の強化。 2 資格取得支援を含む(施設内)研修の実施。 3 評価制度の受審。 4 業務委託の見直し。 5 保有車輛の見直し。
支援センター	在支	1 地域高齢者の抱える問題の早期発見と、関係機関との適切な連携。 2 懇談会や地域支援連絡会等の開催にて、より地域密着型の支援センターを目指す。 3 介護予防活動の展開、および要介護状態前の高齢者の実態把握。	1 より積極的な在宅介護支援センターのPRを推進する。 2 府中市における地域包括支援センターの動向に関する情報を収集する。
	居支	1 在宅介護支援センター併設の居宅支援センターとしての役割を全うする。 2 保険者・サービス提供事業所との連携を密にする。 3 個人情報保護を徹底する。	1 職員個々の能力向上を図る。 2 予防プラン受託の再考。 3 平成21年度の制度改正や、府中市の地域包括支援センターの動向について注視していく。
センター	通所(デイ)	1 デイサービスの意義と効果を分かりやすく説明する工夫をする。 2 家族への活動公開と家族懇談会を実施する。 3 入浴希望者を整理検討し、実施につなげる。 4 重度、認知高齢者も安心できる体制作り。(送迎車両の見直しと活動内容の再考)	1 スタッフの介護スキル向上を図る。 2 スタッフの資格取得へ取り組む。 3 通所介護計画書、モニタリング等、介護保険法の遵守。
	通所外	《介護予防推進事業》 1 介護予防コーディネータと協同し、リスク者の教室参加を展開する。 《ほっとサロン》 1 うつ、引きこもり予防の活動を展開する。	《介護予防》 1 介護予防健診後のリスク者の発見と教室への誘いかけを行う。
ホーム	ホーム	1 安定した稼働率の確保。 2 生活環境の改善(床張替え、ベッドマットレスなどの買い替え、感染症対策)。 3 「府中エリアプロジェクト」から発信された「利用者の居場所づくり」の具現化。 4 認知症高齢者が落ち着いて生活できる環境と援助方法の追求。	1 人材育成(リーダー層・相談員補佐・介護支援専門員の専門性を掘り下げる)。
	ショート	1 入退所数、入所時間の調整。 2 滞在中の過ごし方の検討。	
連携	看護	[看護] 1 健康管理と、その維持管理。 2 緊急時・重度化対応、および看取りケアの充実。 3 感染症の予防と適切な対策の実施。	1 部署間の連携強化、均一ケアの提供。 2 看取りに関する承諾書の整備。 3 感染症マニュアル整備、研修や掲示等による、その啓蒙。
	食事	[訓練] 1 ケアプランと連動した機能訓練プログラムの立案および提供。 1 利用者の状態に合わせた安全で食べやすい食事を提供する。 2 残菜調査・嗜好調査を実施する。 3 食事全般の質の向上を図る。	1 新調理システムを本格導入する。 2 衛生管理と防災管理の徹底。